



ロボット 100 年

—文学・マンガ・アニメ・映像—



メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』が発表されたのが 1818 年、「ロボット」という言葉が誕生したのが 1920 年と、2018 年から 2020 年はロボット・人造人間 Years となります。文化を通してロボットのことを考えてみましょう。

まず皆さんに考えて欲しいことは、「ロボットとは何か」ということです。ロボットはいつ頃から考えられ、存在していたのでしょうか？また、ロボットにはどんな種類があるのでしょうか？この講座ではギリシャ神話、聖書から鉄腕アトム、機動戦士ガンダム、エヴァンゲリオンのようにマンガ、アニメに登場するもの、さらには R2-D2、C-3PO、BB-8 などの映像に登場するまで幅広く扱います。

用語としてもロボット、オートマタ、アンドロイド、サイボーグ、人造人間、改造人間、新造人間など様々な表現があります。厳密にすべてを定義することも難しい状態ですが、その起源を辿っていくと新しいヒントも隠されているかもしれません。

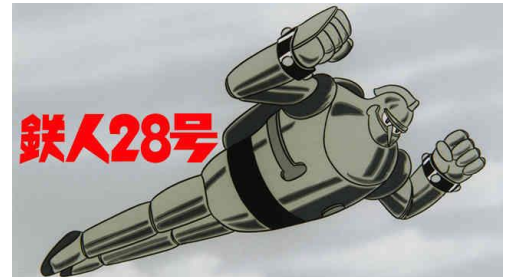


1 「ロボット100年—文学・マンガ・アニメ・映像—関連年表」

- BC 8世紀 ホメロス『イーリアス』(神話物語)
- BC 3世紀 アポロニオス『アルゴナウティカ』(神話物語)
- BC1世紀 オヴィディウス『メタモノフォーゼ』(『転身物語』) (~AD1世紀) (神話物語)
- BC 400 列禦寇『列子』
- 12世紀 西行法師『撰集抄』
- 16世紀 ゴーレム伝説 (16世紀)
- 1808 ゲーテ『ファウスト』(小説)
- 1816 ホフマン『砂男』(小説)
- 1818** **メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』(小説)**
- 1845 エドガー・アラン・ポー『シェヘラザードの千一夜物語』(小説)
- 1870 レオ・ドリーブ作曲『コッペリア』(バレエ初演)
- 1883 カルロ・コロディ『ピノッキオの冒険』(小説)
- 1886 ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』(小説)
- 1891 ルイス・P・セナレンズ他『フランク・リード』シリーズ (~1898)
- 1893 アンビローズ・ピアス『モスクンの人形』(小説)
- 1895 アーサー・マッケン『怪奇クラブ』(小説)
- 1900 L・フランク・バウム『オズの魔法使い』(小説)
- 1910 J・サーリー・ドーリー監督『フランケンシュタイン』
- 1914 パウル・ヴェゲナー監督『ゴーレム』(映画)
- 1916 グスタフ・マイリンク『ゴーレム』(小説)
- 1920 パウル・ヴェゲナー監督『巨人ゴーレム』(映画)
- 1920** **カレル・チャペック『R・U・R』(戯曲)**
- 1923** **John Burdon sanderson Halldane. *Daedalus or Science and the Future.***
- 1926 フリッツ・ラング監督『メトロポリス』(映画)
- 1929 江戸川乱歩「押絵と旅する男」(小説)
- 1929** **John Desmond Bernal. *The World, the Flesh and the Devil.* Foyle Publishing**
- 1931 ジェイムズ・ホエール監督『フランケンシュタイン』(映画)
- 1936 ジュリアン・デュヴィヴィエ監督『巨人ゴーレム』(映画)
- 1938 レスター・デル・リイ『愛しのヘレン』(小説)
- 1940 ベン・シャープスティーン他監督『ピノキオ』(映画)
- 1947 手塚治虫『火星博士』(マンガ)
- 1948 手塚治虫『大空魔王』(マンガ)
- 1950** **アイザック・アシモフ『われはロボット』(小説)**
- 1952 手塚治虫「アトム大使」(連載開始)
- 1952 ポール・グリモー監督『やぶにらみの暴君』(映画)
- 1955 前谷惟光『ロボット三等兵』(連載開始)
- 1953 『人造人間モンスター』カバヤ児童文化研究所
- 1956 マクラウド・ウィルコックス監督『禁断の惑星』(映画)
- 1958 星新一「人造美人」(短編小説)
- 1959 手塚治虫原作/吉川博他監督『鉄腕アトム』(TV放映開始)
- 1959 手塚治虫「鉄腕アトム 火の壺島の巻」(連載開始)
- 1961 手塚治虫「鉄腕アトム ホットドッグ兵団の巻」(マンガ)
- 1961 横山光輝『鉄人28号 超人間ケリー』(マンガ)
- 1961 水木しげる「サイボーグ」(マンガ)



- 1961 横山光輝「超人間ケリー」(マンガ)
- 1963 手塚治虫『鉄腕アトム』(TV 放映開始)
- 1963 星新一「夜の事件」(短編小説)
- 1963 横山光輝『鉄人28号』(TV 放映開始)
- 1963 平井和正『エイトマン』(TV 放映開始)
- 1964 石ノ森章太郎「サイボーグ009」(連載開始)
- 1964 星新一「花とひみつ」(短編小説)
- 1964 手塚治虫『ビッグX』(TV 放映開始)
- 1964 星新一「気まぐれロボット」(短編小説)
- 1964 石ノ森章太郎『アンドロイドV』(連載開始)
- 1965 星新一「博士とロボット」(短編小説)
- 1965 星新一「なぞのロボット」(短編小説)
- 1965 D.S.Halacy, Jr. *Cyborg: The Evolution of the Superman.*
- 1966 手塚治虫『マグマ大使』(TV 放映開始)
- 1966 芹川有吾監督『サイボーグ009』(映画)
- 1967 芹川有吾監督『サイボーグ009 怪獣戦争』(映画)
- 1967 泉ゆき雄『大マシン』(連載開始)
- 1967 横山光輝『ジャイアントロボ』(TV 放映開始)
- 1967 『宇宙特撮シリーズ キャプテンウルトラ』(TV 放映開始)
- 1968 石ノ森章太郎『サイボーグ009』(TV 放映開始)
- 1968 D.S.ハラシー, JR./桜井靖久訳『サイボーグ 未来人間をつくる科学』白揚社
- 1970 森政弘「不気味の谷」(『Energy』第7巻第4号、エッソ・スタンダード石油)
- 1971 石森章太郎『仮面ライダー』(TV 放映開始)
- 1971 石原藤夫『SFロボット学入門』早川書房
- 1972 石森章太郎『人造人間キカイダー』(TV 放映開始)
- 1972 鈴川鉄久原作『アストロガンガー』(TV 放映開始)
- 1972 永井豪『マジンガーZ』(1972, TV 放映開始)
- 1972 日本産業用ロボット工業会
- 1972 ジョン・デズモンド・バナール/鎮目恭夫訳『宇宙・肉体・悪魔』みすず書房
- 1973 マイケル・クライトン監督『ウエストワールド』(映画)
- 1973 藤子・F・不二雄『ドラえもん』(TV 放映開始)
- 1973 石森章太郎原作『ロボット刑事』(TV 放映開始)
- 1973 長島慎二・ひろみプロダクション『ミラクル少女リミットちゃん』(TV 放映開始)
- 1973 永井豪・ダイナミックプロ『キューティーハニー』(TV 放映開始)
- 1973 吉田竜夫・タツノコプロ企画室原作/笹川ひろし監督『新造人間キャシャーン』(TV 放映開始)
- 1974 吉田竜夫・タツノコプロ企画室原作/鳥海永行監督『破裏拳ポリマー』(TV 放映開始)
- 1974 石森章太郎『がんばれ!! ロボコン』(TV 放映開始)
- 1974 松本零士監督『宇宙戦艦ヤマト』(TV 放映開始)
- 1974 永井豪・石川賢監督『ゲッターロボ』(TV 放映開始)
- 1974 リチャード・A・コーラ監督『人造人間クエスター』(映画)
- 1974 メル・ブルックス監督『ヤング・フランケンシュタイン』(映画)
- 1975 鈴木良武原作/富野喜幸・長浜忠夫監督『勇者ライディーン』(TV 放映開始)
- 1975 竜の子プロ企画原作/笹川ひろし・鳥海永行総監督『宇宙の騎士テッカマン』(TV 放映開始)
- 1975 タツノコプロ企画室原作/笹川ひろし監督『タイムボカン』(TV 放映開始)
- 1975 Philip K. Dick. "Man, Android, and Machine"
- 1976 アイザック・アシモフ&ロバート・シルヴァーバーグ『ポジトロニック・マン』(原題『バイセンテナア



- ル・マン』
- 1976 八手三郎原作／長浜忠夫総監督『超電磁ロボ コン・バトラーV』(TV 放映開始)
- 1976 ケネス・ジョンソン監督『地上最強の美女バイオニック・ジェミー』(*The Bionic Woman*, ~1978 TV 放映)
- 1976 クリス・コロンバス監督『アンドリュウ-NDR-114』(映画)
- 1977 ジョージ・ルーカス監督『スター・ウォーズ』(映画)
- 1977 八手三郎原作／長浜忠夫総監督『超電磁ロボ ボルテスV』(TV 放映開始)
- 1977 富野喜幸総監督『無敵超人ザンボット3』(TV 放映開始)
- 1978 松本零士『銀河鉄道999』(TV 放映開始)
- 1979 **富野喜幸監督『機動戦士ガンダム』(TV 放映開始)**
- 1981 鳥山明『Dr.スランプ アラレちゃん』(TV 放映開始)
- 1981 高橋良輔・星山博之原作『太陽の牙ダグラム』(TV 放映開始)
- 1981 石原藤夫『SF ロボット学入門』(一部改稿)
- 1982 スタジオぬえ原作／アートランド(原作協力)『超時空要塞マクロス』(TV 放映開始)
- 1982 寺沢武一原作／出崎純監督『Space Adventure コブラ』(映画)
- 1982 レイ・ブラッドベリ『歌おう、感電するほどの喜びを!』(アメリカ TV 放映)
- 1983 日本ロボット学会設立
- 1983 『プラレス3四郎』(TV 放映開始)
- 1984 ジェームズ・キャメロン監督『ターミネーター』(映画)
- 1984 Donna J. Haraway. "A Cyborg Manifesto: Science, Technology, and Socialist-Feminism in the Late Twentieth Century"
- 1985 吉川弘之『ロボットと人間』日本放送出版協会
- 1985 Issac Asimov and Karen A. Frankel. *ROBOTS, Machines in Man's Image*. Harmony Books
- 1986 ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』(小説)
- 1986 ジェームズ・キャメロン監督『エイリアン2』(映画)
- 1986 ジョン・クロード・ロード監督『悪魔の改造人間』(映画)
- 1986 鳥山明『ドラゴンボール』(TV 放映開始)
- 1986 アイザック・アシモフ、カレン・A・フランケル／加藤一郎監修／仙名紀訳『ロボットの世界』東急エージェンシー出版部
- 1987 ポール・バーホーベン監督『ロボコップ』(映画)
- 1988 押井守『機動警察パトレイバー』(OVA)
- 1989 Issac Asimov, Charles G. Wough, and Martin H. Greenberg, editors. *Robots*. Robinson Publishing
- 1990 木城ゆきと『銃夢』(連載開始、1993 OVA)
- 1991 Donna J. Haraway. *Simians, Cyborgs, and Women: The Reinvention of Nature*. Routledge
- 1994 安積邦編『ロボットヒーロー 鋼鉄列伝』
- 1994 川島透監督『押絵と旅する男』(映画)
- 1994 ケネス・ブラナー監督『フランケンシュタイン』(映画)
- 1995 **庵野秀明『新世紀エヴァンゲリオン』(TV 放映開始)**
- 1995 押井守監督『GHOST IN THE SHELL/攻殻機動隊』(映画)
- 1995 Chris Hables Gray, editor. *The Cyborg Handbook*. Routledge
- 1998 斎藤環他『少女たちの戦歴』青弓社
- 2001 福田淳一編『サイボーグ009 研究叙説』(Vol.19) (2003 改訂)
- 2002 高橋しん原作／加瀬充子監督『彼女最終兵器』(TV 放映開始)
- 2003 荒川弘『鋼の錬金術師』(TV 放映開始／2009、再アニメ化)
- 2003 石原あえか「フラスコの中の人工生命—ゲーテ『ファウスト』におけるホムンクルス・エピソード」(『慶應義塾大学日吉紀要 ドイツ語・文学』第37号)



- 2003 シリル・フィエヴェ／本多力訳『ロボットの世紀』白水社
- 2003 福田敏男『鉄腕アトムのロボット学』集英社
- 2003 Bruce Grenville, editor. *The Uncanny: Experiments in Cyborg Culture*. Vancouver Art Gallery/
Arsenal Pulp Press
- 2004 荒川弘『鋼の錬金術師』(TV放映開始、2009再アニメ化)
- 2005 クリス・ウェッジ監督『ロボッツ』(映画)
- 2005 『GYROS』(特集:アニメ文化、第10号) 勉誠出版
- 2006 エース・クルーズ監督『ゴーレム』(映画)
- 2007 マイケル・ベイ監督『トランスフォーマー』(映画)
- 2007 高畑勲『漫画映画の志』岩波書店
- 2008 ジョン・ファヴロー監督『アイアンマン』(映画)
- 2008 渡瀬悠宇原作『絶対彼氏』(TV放映開始)
- 2008 アンドリュー・スタントン監督『ウォーリー』(映画)
- 2008 郭在容監督『僕の彼女はサイボーグ』(映画)
- 2009 ジェームズ・キャメロン監督『アバター』(映画)
- 2009 新星出版社編集部編『徹底図解 ロボットのしくみ』新星出版
- 2009 小野俊太郎『フランケンシュタイン・コンプレックス』青草書房
- 2009 石黒浩『ロボットとは何か』講談社
- 2010 シャンカーン監督『ロボット』(映画)
- 2010 木皿泉脚本『Q10』(TV放映開始)
- 2010 原克『身体補完計画 すべてはサイボーグになる』青土社
- 2011 ショーン・レヴィ監督『リアル・スティール』(映画)
- 2011 キケ・マイーリュ監督『エヴァ』(映画)
- 2012 矢口史靖監督『ロボジー』(映画)
- 2012 [ゲーグルグラス](#)
- 2013 西荻弓絵・泉澤陽子脚本『安堂ロイド～A.I. knows LOVE?～』(TV放映開始)
- 2013 山口ヨシ子「SF ダイムノヴェル―テクノロジー、冒険、帝国主義」(『人文学研究所報』第50巻、神
奈川大学人文科学研究所)
- 2013 Dan Roberts. *Famous Robots & Cyborgs*. Sword Books
- 2013 ギレルモ・デル・トロ監督『パシフィック・リム』(映画)
- 2014 ドン・ホール／クリス・ウィリアムズ監督『ベイマックス』(映画)
- 2014 ジョン・ライト監督『スティールワールド』(映画)
- 2014 ガベ・イバニェス監督『オートマタ』(映画)
- 2015 ニール・ブロムカンプ監督『チャッピー』(映画)
- 2015 デボラ・インストール『ロボット・イン・ザ・ガーデン』(小説)
- 2015 [ハウステンボス変なホテル](#)
- 2015 柴田崇「サイボーグの原型：“extension”の系譜学に基づくJ.D.バナーの読解」(『年報新人文』臺
12巻、北海学園大学)
- 2015 Ana Matronic. *Robot Takeover*. Cassell
- 2016 山田夏樹『石ノ森章太郎論』青弓社
- 2017 [ホテルラグーナホテル](#)
- 2017 五十嵐浩司『ロボットアニメビジネス進化論』光文社
- 2017 高橋優子『ポップカルチャーを哲学する福音の文脈化に向けて』
新教出版社
- 2017 氷川竜介『アニメ100年ハンドブック』IRD工房、
- 2017 ダナ・ハラウェイ／高橋さきの訳『自然の再発見 猿と女都市ボーグ』青土社



- 2017 曾利文彦監督『鋼の錬金術師』(映画)
- 2018 佐藤信介監督『いぬやしき』(映画)
- 2018 変なホテル東京
- 2018 池添隆博監督『新幹線変形ロボ シンカリオン』(TV放映開始)



東映ヒーロワールド (2017年1月に閉館)



2 『広辞苑』 第6版と第7版の見出し語及び定義の比較対照表 (抜粋)

※『広辞苑』(第7版、2018年1月)についてはLOGOVISTAの電子版を利用したため、数字表記が横書きとなり、算用数字となっている。電子版にはページ数の記載はない。また、コピーができる機能がある。

※第6版(2008)と第7版(2018)の両方に記載があり、第7版で内容の変化があった場合には赤字で示した。

※記載のないものは「なし」と記載し、その他適宜内容に応じて記載した。

見出し語(親項目・追加項目)	『広辞苑』(第6版、2008年1月)	『広辞苑』(第7版、2018年1月)
アンパンマン	なし	なし
エヴァンゲリオン	なし	なし
ウルトラマン	(和製語)一九六六年(昭和四一)から放送された円谷プロ製作のテレビ番組の主人公。銀色の体をした巨人に変身し、怪獣などから地球を守る。スーパーマンになぞらえての命名。	1966年～67年に放送された円谷プロ製作の特撮テレビドラマ。また、その主人公。変身して怪獣などと戦い地球を守る巨大ヒーローという設定を引き継ぎ、シリーズ化される。
黄金バット	なし	なし
ガメラ	なし	なし
仮面ライダー	なし	1971年～73年に放送された特撮テレビドラマ。石ノ森章太郎原作。また、その主人公。人体改造され異形の姿に変身する能力を得て悪の組織と戦う。オートバイに乗って戦う変身ヒーローという設定を引き続きシリーズ化れる。
機動戦士ガンダム	なし	なし
月光仮面	川内康範原作、一九五八年放送開始のテレビ番組。正義の味方、月光仮面が悪を退治する物語。国産テレビ映画として大ヒットした。	川内康範原作、1958年放送開始のテレビ番組。正義の味方、月光仮面が悪を退治する物語。国産テレビ映画として大ヒットした。
ゴジラ	(ゴリラとクジラを合わせた造語)一九五四年作、本多猪四郎監督の映画の題名。また、その主役の怪獣名。円谷英二特撮監督。ビキニ環礁近くに太古より眠る生物が水爆実験の放射能で巨大化し、日本を襲う。続編も次々に作られ、怪獣映画を世界的に流行させた。	(ゴリラとクジラを合わせた造語)一九五四年作、本多猪四郎監督の映画の題名。また、その主役の怪獣名。円谷英二特撮監督。ビキニ環礁近くに太古より眠る生物が水爆実験の放射能で巨大化し、日本を襲う。続編も次々に作られ、怪獣映画を世界的に流行させた。
スーパー戦隊シリーズ	なし	なし
スーパーマリオ	なし	なし
スヌーピー	なし	なし
セーラームーン	なし	なし
千と千尋の神隠し	なし	なし
鉄腕アトム	少年ロボットの活躍を描いた手塚治虫作の漫画。一九五一年から六八年まで月刊誌「少年」に連載(初めは「アトム大使」)。また、初の国産連続テレビ	少年ロボットの活躍を描いた手塚治虫作の漫画。1951年から68年まで月刊誌「少年」に連載(初めは「アトム大使」)。また、初の国産連続テレビ

	ビ・アニメとして六三年に放映開始。	アニメとして63年に放映開始。
鉄人28号	なし	なし
ドラえもん	なし	藤子不二雄（1933～1996）作の漫画。1969年連載開始。未来から来たネコ型ロボットのドラえもと小学生たちの交流を描く。
ドラゴンボール	なし	なし
石ノ森章太郎	なし	漫画家。本姓、小野寺。宮城県生れ。作「サイボーグ009」「仮面ライダー」「マンガ日本経済入門」など。筆名は、1980年半ばまで石森章太郎。（1938～1998）
手塚治虫	漫画家。本名、治。大阪生れ。大阪大付属医学専門部卒。映画的手法を駆使し、ストーリー漫画を芸術の域に高めた。アニメーションも制作。作「ジャングル大帝」「鉄腕アトム」「火の鳥」など。（一九二八 一九八九）	漫画家。本名、治。大阪生れ。大阪大付属医学専門部卒。映画的手法を駆使し、ストーリー漫画を芸術の域に高めた。アニメーションも制作。作「ジャングル大帝」「鉄腕アトム」「火の鳥」など。（1928～1989）
水木しげる	なし	漫画家。本名、武良茂。大阪生れ。鳥取県で育つ。太平洋戦争中、南洋で左腕を失う。戦後、「ゲゲゲの鬼太郎」などの妖怪漫画で人気を博す。戦争体験を描いた作品も多い。（1922～2015）
やなせたかし	なし	漫画家・絵本作家。本名、柳瀬嵩。東京生れ。高知県で育つ。代表作「アンパンマン」シリーズ。作詞も手がける。（1919～2013）
横山光輝	なし	漫画家。本名、光照。神戸生れ。1956年の「鉄人28号」が出世作となる。作品は他に「伊賀の影丸」「魔法使いサリー」「三国志」など。（1934～2004）

※『広辞苑』の編集方針として、日本人の場合には物故者でないと取り上げないことになっていますが、手塚治虫以外にもマンガ家に取り上げられています。なお、今回はロボット・サイボーグ・アンドロイド・人造人間にこだわって抜粋しました。



3 「ロボット100年—文学・マンガ・アニメ・映像—」に関連した業績

詳細はHP「佐々木隆研究室」(<http://www.ssk.econfn.com>)、「研究者:佐々木隆」(<http://researchmap.jp/read0039201/>)で公開しているのでご覧いただきたい。

著書

『オタク文化論』(イーコン、2012年1月)

『ポップカルチャー論』(多生堂、2016年12月)

『ロボット100年—文学・マンガ・アニメ・映像—』(武蔵野学院大学 佐々木隆研究室、2018年4月)

論文等

「教員免許状更新講習と英語教材研究」(『武蔵野教育研究』第3巻第1号、武蔵野教育研究会、2016年2月)

webによる公開 (イーコンのインターネット講座)

「日本のマンガ/アニメーロボットと戦闘美少女」(全1回完結、2012年2月)

講演・研究発表等

「日本における英米文学 映像をめぐる」(日欧比較文化研究会、1997年7月)

「教材としての英米文学の行方」(日本英語文化学会、シンポジウム「大学における一般教養科目としての『英語』を考える」、2010年9月4日)

「英語の教材研究事例～ポップカルチャーの活用:アニメ・マンガを中心に～」(日本英語文化学会第129回月例会、昭和女子大学研究館6S02、2014年12月13日)

「ポップカルチャーの行方—マンガ、アニメ、ゲーム、ファッション、SNS、アイドル文化 若者文化が国策へ」(文化統計研究会、国際文化会館、2015年3月22日)

『広辞苑』(第7版)に見るポップカルチャーの台頭」(比較文化史学会、会場:国土館大学、2018年2月27日)

公開講座・模擬授業等

「英文学ア・ラ・カルト—シェイクスピアから J.K.ローリングまで—」(武蔵野学院大学・武蔵野短期大学・日本総合研究所 公開講座、2008年10月4日)

「アニメに見る異文化理解」(武蔵野学院大学・武蔵野短期大学 模擬授業 2009年3月27日)

「文学を考える—児童文学・ファンタジー・科学」(武蔵野学院大学・武蔵野短期大学 模擬授業[埼玉県立福岡高等学校]、2009年12月16日)

「子どものための外国文学」(武蔵野学院大学・武蔵野短期大学 シニア・カレッジ子育て支援学科、2010年1月9日)

「文学と科学—ロボットを中心に—」(武蔵野学院大学 模擬授業、2010年1月14日)

「外国文学とロボット」(武蔵野学院大学・武蔵野短期大学 コラボレーション講座、2010年6月12日)

「マンガで学ぶ英語」(武蔵野学院大学 模擬授業、2010年8月28日)

「マンガとアニメと教育」(武蔵野学院大学 模擬授業、2010年12月20日)

「マンガ/アニメと文学」(武蔵野学院大学 模擬授業[埼玉県立桶川高等学校]、2011年1月20日)

「マンガとアニメで知る国際コミュニケーション」(武蔵野学院大学 模擬 授業、2011年1月27日)

「オタク文化で英語」(武蔵野学院大学・武蔵野短期大学 模擬授業[埼玉県立滑川総合高等学校]、2011年11月17日)

「オタク文化がニッポンを救う」(武蔵野学院大学 模擬授業、2011年12月10日)

「オタク文化論」(武蔵野学院大学 模擬授業、2013年8月24日)

「アニメ、スーパー戦隊シリーズからこんなことがわかる!」(武蔵野学院大学・武蔵野短期大学子ども大学さやま、2014年1月18日)

「マンガ／アニメに見る日本文化」(「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第9陣セミナー、公益財団法人日中友好会館、日中友好会館大ホール、2014年3月5日)

「マンガ／アニメにみる現代日本文化」(「JENESYS2.0」韓国青年訪日研修団第1団、公益財団法人日韓文化交流基金、国際ファッションセンターHall&Rooms10階、2014年7月30日)

「アニメに見る英語」(武蔵野学院大学 模擬授業 [埼玉県立緑陽高等学校]、2016年10月13日)

「スーパー戦隊シリーズ、ドラゴンボール、ポケモン大集合! マンガ・アニメでも勉強するぞ!？」(子ども大学さやま、武蔵野学院大学、2016年10月15日)

「マンガ／アニメに見る日本文化とは」(「JENESYS2.0」香港・澳門高校生訪日団セミナー、公益財団法人日中友好会館、日中友好会館大ホール、2016年12月14日)

「スーパー戦隊、ドラゴンボール、ポケモンで勉強!？」(NPO法人子ども大学かわごえ、会場：東京国際大学第1キャンパス3号館314教室、2017年11月25日)

「ロボット100年—文学・マンガ・アニメ・映像—」(武蔵野学院大学・武蔵野短期大学 コラボレーション講座、2018年7月7日) 今回の講座

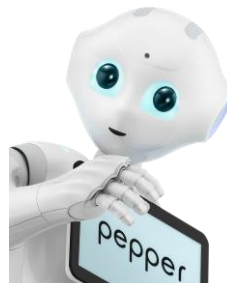
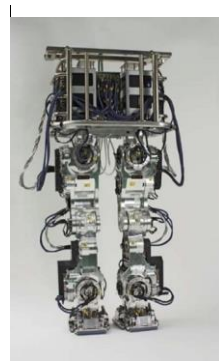
おもな授業担当

「英米文学史」(武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科、2004年度～現在に至る)

「映像表現論」(武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科、2010年度～2017年度)

「ポップカルチャー論」(武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科、2013年度～現在に至る)

「英米文学分野」(クール・ジャパン等を含む)(教員免許状更新講習、2009年度～現在に至る)



作成 武蔵野学院大学 佐々木 隆 「佐々木隆研究室ホームページ」
http://www.ssk.econfn.com 発行日 2018年7月7日

